

(第3種郵便物認可)

行方不明高齢者を守る QRステッカー配布

清林館高生発案 愛西市が事業開始へ

愛西市は認知症によって、行方不明になる恐れのある高齢者への対策として、QRコード付きステッカーを配布する事業を始める。発見者が行方不明者の衣服などにつけられたQRコードを読み込むと、家族

らと連絡がとれる仕組みで、海部地域では初の取り組み。事業は二〇一九―二〇年度に、市と清林館高校（同市）が取り組んだ官学協働プロジェクトの中で、生徒が発案した。



配布されるQRコード付きステッカーの見本品＝愛西市役所で

ステッカーは親指ほどの大きさ。発見者がQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、発見場所などの入力フォームが表示される。送信すると、家族らに発見されたという旨のメールが届き、その後は伝言板

を通じたやりとりが、双方で可能となる。

あらかじめ、持病や「左耳が聞こえにくい」といった情報も登録しておくことができ、QRコードを通じて、発見者に伝えられる。

市の担当者は「従来、発見者は警察や市に連絡し、そこから身元を割り出していたので時間がかかった。ステッカーで大幅な時間短縮ができる」と語った。また、遠方でも身元が特定しやすく長所もある。県

内他市の事例では、QRコードを通じ、滋賀県で行方不明者が発見、保護されたケースもあったという。

ステッカーの希望者は申請が必要。受け付けは七月一日からで、一セット五十枚で無料。アイロンで貼り付けるタイプ（四十枚）と、夜間に光るシールタイプ（十枚）があり、追加配布は一セット四千二百九十円（税込み）がかかる。市高齢福祉課＝0567（55）7117（深世古峻一）